

このように指導しましたが

園児の変化をみて

山 村 き よ

のべ、その中から指導の経過と効果をよみてついでいただき度いと思う。

一、本園幼児の特殊性

1、幼児の実体

多くの希望者の中から簡単なメンタルテストと抽せんによつて入園を許可され三百名の幼児達は心身共に問題はなく、一学期末に実施した個人別知能テスト(田中ビネー)の結果も男一一八、女一一五、のかなり高い標準を示し定期身体検査でも数字の上ではすべてが全国、東京、の標準をはるかに上まわつていゝのに、入園当初実際に見た目にはなんともなく顔色のよくないものや、ひよわな感じのする者が多く、ことに保育開始一週間目位からは社会性の円満を欠く者が目立つていゝた。

2、家庭環境の特殊性

インテリーの家庭が多く、六十七年もの歴史ある幼稚園に親子、孫兄弟など三代、四代とつづけて入園させた家庭もありそれぞれの家庭教育実施のもとにいろいろな型を身につけて入園してくるものが目立つ反面、公平な抽せんによつてバスした家庭の中にはさまざまなかたちで幼児の個人差を示し、家庭環境の差のあることに驚いた。

二、本園施設の特殊性

親子、兄弟と縁のつながる幼稚園に入園させ度いと願う親心や、最近是一般人にもよい意で幼児教育が理解されてきたのか、年々希望者は増加する一方で本年も約五倍の応募者をもつた関係上、敷地総坪数僅かに三一一、三二坪のところにて二階木造で建てられている園舎に現在三百名の幼児を収容している。これでは設置基準からいづつても許されないこととは思うものの、一人でも多くを収容せねばならない現状からは止むを得ないこととしてこの施設と収容人数のアンバランスを私は職

まえがき

個々の幼児がどのように指導されて、どのように変化したかを見ることは重要なことであるが、私は園長の立場で多くの幼児に及ぼす効果を期待して経営に努力してきたことを

員組織と、その他施設設備の改善、カリキュラムの特種な立案によつておぎない、幼児の調和的心身の発達に努力してきたつもりである。

三、教育目標としての努力点

(1)、特に注意せねばならない身体的方面のこと

前にものべたように目立つ身体的な欠かぬもないのに何となく「ひよわ」に見うけられるのは家庭環境の特種性から影響をうけていることと思う。

○足がよわい（ころびやすい者が目立つ）

○なよなよとした感じで、行動の「かんなな者」が多い。

○体力的に差が大きい。（戸外遊びや、大積木などで遊ぶ場合に目立つ）

以上のことを考えてその指導には次のような点に努力してきた。

- 1、しっかりと歩く力をつけること。
- 2、のぼったり、ぶらさがったり、走ったりして身体全体をうごかすことや、平均運

動などに重きをおくこと。

3、偏食の矯正

(2)、情緒の安定と社会性の円満な発達に心がける。

自己中心的な時代に加えて我が子中心の家

庭環境が、入園前一步も外遊びや、近所の友達あそびをしなかつたことと重つて非常に社会性に欠けているため、集団生活の中でうける不安定な気持は又格別らしいので、一人一人の情緒の安定ということには特に注意をあらわねばならない。

(3)、両親の啓蒙

保護者の中にも社会性の円満をかく者が目立つので子供達を通して保護者同志の交際がスムーズに運ぶようにクラス別の集りを多くもつように計画しなければならぬ。又両親の中には早くから知的生活に入れようと努力している者が多く、中には入園前から文字や数字を教えたり、いろいろと観念的な言葉や、礼儀作法などを強いているようすも見うけられるので「知能のはたらき」は健康な心身によらなければそれぞれの能力も、充分に

發揮することのできないことを幼稚園入園と同時に、実際の保育の場を通して両親に認識させねばならない、ことに当園の幼児の実体から考えてすべてが家庭環境の特種性から影響をうけていることの重大さをはつきりと認識させねばならない。

四、目標達成のために選んだ方法

1、古い施設の改善と遊具の整備

○さきにもべた身体的方面の目標達成のためには大ぜいの者が安心してとびつかれるように遊具の修理は勿論、「登ること、ぶらさがること、ぐるぐるまわることなど」身体全体の運動量を考えた遊具を考案して日のあたる安全な場所にしつかりと取つけた。

(屋上)

○情緒の安定をはかるためには建物の側面、や、せまい園庭の一隅に小鳥、にわとり、うさぎなど可愛い生きものを身近に接しられるよう工夫した（現在ではにわとりが生む玉子も十日間ためると一組の幼児がゆで玉子 $\frac{1}{4}$ づつお弁当の時に楽しめるので喜び

を増している)

○保育室内の机の数を少くして、広い場所をつくり、まわりのはめ板には十二、三ヶ所の折たたみ式の棚を取つけて必要に応じて机、製作品の陳列、ままごとの棚などに利用している。大きな紙を使用するときは画架、教師用の黒板などを利用して空間を利用しながら子供達自身が使いやすい保育室となるように、又大せいの子供でも一人一人のうごきが自由に営めるように遊具、教材なども適当に用意して自律的に導いた。ことに保育室の明るさを常に注意し、色彩的に細い配慮をした。

2、園外保育

当園カリキュラムの最も特徴ともいえるべきもので五月中旬から十二月上旬までの間、晴天の日を選んで一週一回、又は月三回位の園外保育を実施している。勿論保護者の附添は一人もなく、年長、年少別々の日に実施するので園庭、園舎のせまいことや、一組の人数の多いことなどで幼児の活動を不自由にしてある点などがみなこの園外保育でおぎなわれ

ている。附添なしで自律的に行動することがいろいろと、教育の場となつて、一人一人の生活態度に多くの効果を表わし、持物の仕末、集合など敏捷な行動を伴う機会が多くなり、ことに社会性の円満な発達を助けている。(日頃無口な子どもも活発に話したり、友達同志の助け合う機会が多くなつたり)はじめにのべた当園幼児の実体である身体的な面、社会性の問題はすべて園外保育によつて効果が期待されるようになった。

3、各教諭の責任ある指導の態度

さきにもべたような家庭環境から各受持教諭に要求される望みは大きい。これらに答えて我が子の正しい見方や幼児教育の正しい姿を知らせるために計画的な両親教育を行つていく。

○一人一人の指導の経過が話せるように資料を多くもつていること。

○カリキュラムの立案にあつてはかならず「現在の子供の姿」を反省しつつ細密な協議をもちながら作成している。(十名の職員が園長を中心として毎週一回)

○幼稚園の生活内容を知らせるために月一回幼稚園便り発行、PTA講座五回、保育参観(両親の)など家庭との連絡や、啓蒙に全力をそそぐなど。

五、現在の幼児の姿

四月からふりかえつてみたときに、多くの幼児に効果をもたらして変化していることは次のようなことからもうかがえる。

1、身体的方面のこと

○脚が丈夫になつてなまよとした感じは全く見えない。

数多くもたれた園外保育やその他の効果でかなり健脚になつて十一月の、上野公園行や、六義園行は往復とも元氣に歩いた。(所用時間片道三、四十分)

○運動器具の使用が上手になつた。

○身体の平均を保つことが上手になつた。

省線電車、都電など利用して行かう園外保育の様に、車体の動揺にも平気で立つていられる者が多い。

○顔色がよくなり丈夫そうに見える。

2、情緒的な面と社会性について

大ぜいの集団生活の中でぶつかり合つて身についた社会性には私共は実に喜びを感じ合つている。ことに一人一人自律的な生活態度が身についたと思われるのは園外保育の効果と思う。ことに園内ではつかみ得ない性格の表われを観察したり、又指導のチャンスをもつたせいか無理なく社会性の円満な発達をした者が多い。

3、両親の教育的態度（省略）

（文京第一幼稚園長）

環境設定について

孝 久 徳

慣れるという事は大変必要でありよい事でありますが、又反面こわい事であると思えます。始め非常に気になった事でも、慣れて来るとそれ程気にならない、即ち其の事にだきようしてしまつて神経が麻痺してしまうのだと思います。私達は時々自分のしている事を一歩退いて、外から眺めて見る必要があると思ひます。しらすしらすにだ勢になつていゝのではないか、人には気になるのに自分が慣れて気にならない事がありわしいか、と静かに反省する機会を持ちたいと思ひます。

幼稚園には入つて行つて、先ず何となく感じる其の園の空気が言ひがあります。明るく楽し相に感じる所、がさがさと落つかない感じの所、冷い感じを受ける所等あると思ひます。私共の園でも参観に見えられた方から「のびのびとしていて元気がよいですね」とのお言葉を伺うと私はハツとします。其の中の何分の一かに落つかない騒がしいという分子がふくまれているのではないかしら……という事を、

環境の中でもち論、一番大切な事は人的環境でしよう、いくら設備が申し分なくても、子供に毎日直接ぶつかつていく先生、お友達から受ける影響と言ひものは一番大きいと思ひます。其の園の先生達が一つになつて協力している姿、努力している様子程、尊いものはないと思ひます。一人一人が自分の園として幼稚園を愛し、幼児を愛しているのではなくて何が出来ましよう。自分の組に執着をもつて競争し合つたり、感情的にもつれ合つたりしていれば、そこから出る空気は非常に冷たいものを感じるでしよう。先生達が絶えず創造し研究している事、個人的にも何か心のうるほいをもつていゝ事は、園全体としても発らつとした中に或落つきをもつていて、子供も非常に安心した気持で飛込んで来る事が出来ると思ひます。

それと同時に物的の環境も大きい力がある事は言うまでもありません。公立幼稚園の一つの悩みとして、小学校或は中学校等とも一つ屋根の下にある為にもいつも騒音の中にある事です。子供達も四月に来た頃はこの騒音にずい分疲労した事でしよう。それが段